

### 京濱方面

#### 一號國道馬入橋架換工事竣功

其の普源頼朝が相模川に浮橋を設け其の橋供養の日頼朝が其の席に臨んだ、ところが頼朝と戈を支へ敗れた者の亡霊が雷雲に乗つて其の場に現れ、頼朝の乗馬が之に驚いて川に落ち込み、頼朝も亦之が原因で病を得て歿した。馬入川の名は之に由つて起る……といふ口碑の傳はる馬入川の架橋造營は、頼朝以來渡船と變り船橋となり又は架橋となる等幾變遷を重ね、明治維新以後も明治十一年、同十二年、同三十七年、同四十二年と架換へられ、近くは大正九年度其の架換の工を起し大半進工して居たが曩の大震災のため悉く壊滅せられた。仍て神奈川県當局は震災の打撃多大なるにも拘らず大正十三年度から再び之が工事を始め所要日數一年半頼朝を苦しめた亡霊がもし出たところで戸惑ひしさうな立派な橋を造り上げた。而して六月八日新橋の西畔で開通式を舉行せら

れた。内務省からは武井事務官が大代理として、又本會からは都築幹事が會長代理として臨場された。當日は初夏らしい清々した晴天で、近郷の人達は新装した馬入橋の雄姿、盛大な式典を見ようと踵を接して集り、兩橋畔はもとより、碓に設けられた餘興場を十重二十重に圍んで賑やかであつた、開通の式の後渡初めがあつたが、三夫婦が五組と言ふ珍らしいもので、老人夫婦もあの長い橋を疲れも見せず渡つた壯健さに參列者一同舌を捲いた、尙其の三夫婦五組三十人分の衣装一切は平塚町の飯島呉服店から寄附したものの由何にしても芽出度芽出度を重ねて正午式を終つた、新しい橋を初めて踏んだ人人が欄干を撫で鋪裝に驚きながら立派な橋の出来たことを喜び合つてゐる様子は此の上もない芽出度く心地良いものであつた。因に馬入橋の架換工事概要當日の式辭並内務大臣、道路改良會長、神奈川県會議長の祝辭は次の通である(谷口松雄)

#### 馬入橋工事概要

- 一 路 線 國道第一號線
- 二 位 置 相模川筋神奈川県中郡須村大字馬入
- 三 橋 長 三百四十二間
- 四 橋 巾 有効巾二十四尺全巾二十六尺
- 五 勾 配 橋面縱斷勾配貳百五拾分ノ一 (反リ) 四尺一寸  
拋物線形橫斷勾配六十分ノ一
- 六 橋梁構造 (イ) 形 式 上路式鋼板桁橋  
(ロ) 徑 間 七十二尺二十七連五十四尺二連

(ハ) 主 桁 鋼板桁高五呎六吋長七十一呎五吋及高五呎六吋長五十三呎五吋中心距離二十呎二條

(ニ) 床 桁 鋼板桁高二呎長十九呎十一吋八分ノ五

(ホ) 小 桁 十二吋 1形鋼 四條 八吋 1形鋼二條

(ヘ) 床 版 鐵筋コンクリート版 厚五寸

(ト) 高 欄 鐵筋コンクリート、橋面上三尺三寸五分

(チ) 親 柱 稻田産花崗石、路面上高九尺五寸二尺八寸  
角橋名板ハ青銅造ニシテ文字ハ堀切本縣知事ノ揮毫ニ成ル

(リ) 橋面鋪裝 アスファルト混凝土 厚二吋

(メ) 照明裝置 親柱及高欄兩側ノ燈柱二十個所ニ電燈ヲ備

(ル) 橋 脚 鐵筋コンクリート高十五尺四寸乃至二十二尺六寸二十八基基礎ハ徑七尺五寸及徑六尺五寸鐵筋コンクリート井筒三本宛根入十二尺乃至十八尺

(ヲ) 橋 臺 コンクリート高二十一尺一寸五分  
延長百六十五間 巾五間五分 勾配三十分ノ一 三十八分ノ一

七 前後摺付道路

八 工事に用主要材料

- 鋼材 一、一一二噸
- 鐵筋 八一、九八三貫
- セメント 八、〇九二樽
- 砂 三六八立坪
- 砂利 七九四六坪

九 工事執行方法 請 負  
アスファルト 二、三九四切  
花崗石 三六一切

鋼板桁工事 道路工事 宮 代 定 吉

橋面アスファルト鋪裝工事 櫻田機械製造所

淺野物産株式會社

中央セメント株式會社

盤城セメント株式會社

總工事費

一〇 工事費 金四拾九萬參千九百七拾八圓也

内 譯

金參萬八百拾六圓 高欄築造費

金壹萬七千四百八拾參圓 橋面鋪裝費

金六萬九千參百參拾圓 橋床築造費

金貳拾壹萬八千六百參拾圓 鋼板桁架設費

金拾貳萬五千參百八拾四圓 橋脚築造費

金六千七百七拾四圓 橋臺築造費

計四拾六萬七千八百拾七圓(面坪當リ約參百四拾貳圓)

金壹萬八千六百七拾九圓 道路工事費

金七千四百八拾貳圓 雜費

一一 工事期間 起 工 大正十三年十二月 大正十五年六月

式 功 式 功

國道一號線馬入橋架設工ヲ竣ヘ茲ニ多數貴賓ノ賓臨ヲ辱クシ閉通

ノ式典ヲ舉ケルヲ得ルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

抑本橋ハ帝國幹線道路タル東海道ノ要樞ニ當リ運輸交通極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ハラズ舊態依然トシテ時運ノ進展ニ伴ハサルノ憾ミアルヤ久シカリキ

是ニ於テ縣ハ大正九年通常縣會ノ決議ヲ經國幣ノ補助ヲ仰キ以テ改築ニ着手シ其ノ功程半ニ達シタルニ偶々彼ノ大震災ニ遭遇シ爲ニ施設悉ク破壊セラレタリ

然レドモ之カ完成ハ一日モ忽ニスヘカラサルヲ以テ直ニ其ノ復興ヲ計畫シ十三年四月臨時縣會ニ附議シ國庫補助ノ下ニ同年十二月工ヲ起シ爾來銳意刻苦功程ノ進捗ヲ圖リ今ヤ堅固雄大ナル長橋ノ成レルヲ見ル

惟フニ本橋ノ竣成ハ永久ニ亘リテ交通運輸ヲ利便ナラシメ地方産業經濟ノ發達ヲ促シ延ヒテ國運ノ進展ニ寄與スル所尠少ナラサルモノアラム

冀クハ沿道地方ノ諸氏新橋ノ利用ニヨリ今後一層文化ノ向上福利ノ増進ヲ計リ以テ長ヘニ其ノ効果ヲ收メムコトヲ聊カ所懐ヲ述ヘテ式辭トナス

大正十五年六月八日

神奈川縣知事正五位勳四等 堀切善次郎

馬入橋改築其ノ功ヲ竣ヘ本日茲ニ開通ノ式ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ

神奈川縣當局夙ニ力ヲ道路ノ改良ニ致シ各地ニ之カ工ヲ進メテ效果著々觀ルヘキモノアリ而シテ今復本橋ノ改築成ルヲ告ク念フニ曩ニ竣功シタル酒匂橋並近ク架換セラレムトスル花水橋ト共ニ京

濱地方ノ運輸ニ便シ湘南地方ノ遊覽ニ資スル等交通上一段ノ利便ヲ進メ地方ノ發展國運ノ振興ニ資補スルトコロ蓋シ尠少ナラサルヘシ

冀クハ地方官民諸氏之カ管理維持ニ力ヲ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十五年六月八日

內務大臣 濱口雄幸

馬入橋改築功成ルヲ告ケ本日茲ニ開通式ヲ舉行セラル邦家ノ爲寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

由來本橋ハ相模川ノ下流ニ位シ東海道ノ要衝ヲ占ム今嶄新ナル設計ノ下ニ竣工ヲ見ル念フニ曩ニ開通シタル酒匂橋ト共ニ東西ノ交通上一層ノ利便ヲ加ヘ其ノ效果ノ及フ所蓋シ尠少ナラサルヘシ本會創立以來銳意道路改良ノ緊要ヲ提唱シ之カ促進ニ努ムルコト多年近時各地共ニ著々其ノ實現ヲ見ルニ至レルハ深ク本會ノ欣懷トスル所ナリ茲ニ開通式ニ當リ衷心ノ祝意ヲ表シ併テ今後之カ維持管理ニ力ヲ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ完カラシメムコトヲ望ム

大正十五年六月八日

道路改良會會長 水野鍊太郎

馬入橋架設工事其ノ工ヲ終ヘ本日ヲ以テ開通式ヲ舉行セラレ爰ニ列席ノ榮ヲ榮タルハ洵ニ欣幸ニ堪ヘサル所ナリ

抑モ本橋ハ曩ニ竣工ヲ告ケタル六郷酒匂ノ兩橋ノ間ニ在リ縣下國道一號線ニ架セル所謂三大橋ノ一ニシテ我方國東西兩域ヲ連絡スル最モ重要ナル路線ニ係リ交通運輸上一日モ缺クヘカラサル所ノモノナリ故チ以テ縣ハ夙ニ之カ改良計畫ヲ樹テ大正九年通常縣會

ノ議決ヲ經著々其ノ工ヲ進メツ、アリシニ不幸工事半シテ彼ノ大震災ニ遭、全ク根柢ヨリ之ヲ破壊セラレ爾來應急的假橋ニ依リ辛ウシテ其ノ用ヲ辨セシムルノ外ナク交通運輸上ノ不便障害眞ニ忍ヒサルモノアリタリ依テ縣ハ更ニ震災復舊事業トシテ多大ノ國庫補助ヲ仰キ大正十三年四月臨時縣會ノ議決ヲ經總工費四拾九萬餘圓日子一年七ヶ月ヲ費シ此ノ有效幅員二十四尺延長實ニ三百四拾間ニ餘ル宏壯堅固ナル上路式鋼板桁橋ヲ完成シ茲ニ全ク東海道陸上交通ノ不安ヲ永久ニ除去スル事ヲ得ルニ至リシモノナリ之ニ依リテ將來我方國ノ交通産業上ニ一大進展ヲ來スハ勿論文化ノ發揚ニ寄與スル所極テ大ナルモノアルヘキヲ想ヒ欣快措ク能ハス一言ヲ述ヘテ祝辭ト爲ス

大正十五年六月八日

神奈川縣會議長 池上 幸操

## 第二回技術者資格檢定試驗成績

日本工人俱樂部の第二回技術者資格檢定試驗は本年五月五日から四日間丸ノ内鐵道協會内土木學會で施行された。本年は土木料二三種、建築科機械科及應用化學科の第三種、試験を施行したのであるが、試験に關する照會は全國及植民地を通じ約壹千其内志願者は土木二種六、同三種七、建築三種三、應用化學一、計一七人であつた。受験者の内には遠く朝鮮、宮崎、青森方面から出京した篤學家もある試験は嚴格な監視の裡に行はれ答案審査の結果左の五名の合格發表があつた。(宮本武之輔)

合格者氏名

地方通信

土木料第二種 原 芳 雄  
同 江 利 川 眞 吾  
同 高 田 牛 吉  
建築科第三種 大 木 申  
應用化學科第三種 田 中 順 一

## 運送調査會設置の建議

工政會は我國に於ける水陸聯絡設備の不完全なことに原因して小運送貨の嵩増を招來し物價の低廉を期するものが出來ないから政府に於て改善方法を調査する爲に運送調査會を設置して統一した交通政策を樹立して呉れと左の建議書を内務大臣に提出した(た)我が國に於ける商港は朝野の努力に依り稍々面目を改められたれども、尙依然として水陸聯絡の便を缺き、而かも小運送に至りては水陸共其の組織、施設、經營等不備を極め、爲に時間勞力及費用を徒費し、公私經濟上其の被る損失甚大なるを以て、本會は政府に於て速に官民中より學識經驗ある者を選抜して調査委員會を設け、水陸聯絡及小運送に關する一統的改善方法を調査報告せしめられんことを望む。

理 由

貨物の運送は船舶及鐵道の輸送のみを以て完了するものにあらず、陸の聯絡及び小運送の設備が之に伴ひ雁行的發達するにあらずれば、到底其の目的を達することを得ざるは更に嗚々を要せず。而かも小運送に於ては其の施設尙舊に依りて改善の實を擧げず、住々遅延毀損又は滅失等の事故を醸し、且其料金は不廉を

極む、最近我が國民が小運送の爲に消費する金額は、陸上のみにても十一年二十億圓を突破し、官私鐵道貨物運賃總額の十倍餘を示せるに拘らず、從來世人は單に之を運送業者又ハ運送取扱業者間のみに限る小問題と看做し、全然之を國家經濟問題の圏外に措き、何等眞摯なる研究を爲さざりしは、甚だ遺憾とする所なり。然るに大震災直後、世人は其の苦き體驗に依り切に水陸聯絡及び小運送設備の改善を庶幾し、漸次朝野の注意を喚起するに至れり。即ち鐵道省官民合同の小運送調査會を設置し、農林省は軌馬利用に關する特殊の研究を開始し、又民間に於ても、競馬協會の如きは、軌馬式荷馬車を乘取式に改むるの企劃を實現せしむとし、其他港灣協會、道路改良協會の如きも亦各特殊の調査を爲す等夫れ夫れ研究を重ねつゝあるも右各個の機關は、相互の調査聯絡を缺き統一的に研究を爲さざるが故に其の效果に於て缺くる所あるを免れず、遺憾なりと謂はざるべからず。由來我が國の運輸業は水陸分業の區劃を設け個々獨立の發達を爲し、水陸不可分なるべき運送取扱業も水陸孰れか一方に偏するの弊あるのみならず、政府當局亦水陸を共通一貫せる交通政策を講ずることなく、隨つて其の施設多くは區々に流れ公私經濟上損失する所莫大なるは實に國家の一大恨事なり。

惟ふに我が國交通行政の組織は多岐に亘り、交通機關の異なるに從ひ監督指導すべき官廳を異にす。即ち鐵道鐵道省、軌道は鐵道及び内務兩省、汽船は遞信省、道路及河川は内務省、馬匹は農林省、自動車、荷車及び駝船は各府縣廳に屬するを以て、到底統一ある健全なる發達を期すべからず。殊に水陸運送及び小運送

に關する監督指導に至りては、全然其の主務官廳を有せざるが如きは、明かに制度の缺陷を示すものにして、之が改善の急務なること論を俟たず。

各地の商港は漸次改善の實を擧げつゝあるも而かも水陸聯絡地點に於ける棧橋、岸壁、上屋、荷揚場、其他の設備に至りては往々不備を極はめ、商港、及び之に連續する鐵道の機能を損すること多大なるを以て、商港の管理又は利用に與かる者は特に此の點を考慮し適當の改善策を講ぜざるべからず。又内地の河川は鐵道の普及に伴ひ却つて之が利用を閑却せられ、其の浚渫及び修理を怠り古來舟楫の便ありたる河川も、次第に河身に埋没して其の用を失ひたるもの尠なからず。然るに河川運送の經費は陸上の運送費に比し遙に低廉なるを以て、苟しくも水道の便を有する河川は努めて河身を浚渫修理し之を利用して小運送料金を低廉ならしむるの必要あることを看過すべからず。

水陸小運送業が萎靡振はざる、現行の制度が之を自由營業に放任し致して監督獎勵をなすことなきに職由す。

陸運事業の監督に關する事務は官制上主管の官廳なきにあらざるも嘗て之が監督獎勵を爲したることを聞かず、隨つて各港各驛到る所に同業者簇出して其の數多きに過ぎ、玉石同架して種々なる弊害を醸すのみならず、多數の小運送業者個々分立して作業の統一を缺き、其の運送用具の如きも有無相通じ、繁閑相調節することを得ざるが故に其結果小運送の料金は不廉となり延いて物價の昂騰を馴致するの事實歴然たるを以て、之が改善策として須らく水陸小運送の制度を確立し、營業を組織的ならしめ、且つ之を

統一的に監督指導する機關を設くるを刻下の急務とす。

港灣、河川に於ける運送は主として、艀船に依るものにして今日我が國主要港に屬する大小艀船は其數約一萬五千隻、八十五萬噸を算し、國家運送能力に關する所大なるを以て、一層其の船型と經營方法との改善に力め、時代の進運に伴はしむるの必要あるは多辨を要せず、又輓近著しく發達しつつある自動車の利用に關する研究を促進し其の經營を組織的ならしむべきは勿論小運送の機關として一ヶ年約七億圓の活動をなし居る荷馬車の如きも、大都市に於ける既倉制度を改善し、之を市内埠頭又は驛構内に設置せしめて、日々郊外の既倉と使役地間との往復の爲め數時間を空費するの弊を除くと共に、其の衛生的設備を完全ならしむる等、彼此相待つて貨物輸送の能率を擧げ、水陸小運送料金を低廉ならしむるの必要ありと認む。

### 地下埋設物の跡埋工事の施行

東京府に於ては知事の管理する道路に電纜、瓦斯管又は上下水道管等を埋設する場合の復舊工事に付左の通り處理方法を定めたと併しながら警視廳及逓信省起業のものは此制限に服せしむることが出来ないのは遺憾である（東京府道路主事）

一 占用許可の申請書に「道路復舊工事に要する費用は全部申請者に於て負擔すべきを以て工事は總て知事に於て之を執行せらるること」を附記せしむること

二 前項の申請書提出ありたるときは調査し不都合なしと認むるときは直に復舊設計書を調製し其の復舊費を府に提出すべき旨

の條件を附し許可すること

三 前項の費用を提供する迄は掘鑿工事に着手せしめざること尙其の金額を指定期限内に提供せざるときは許可の効力を失ふべきことを命令條件とすること

四 右復舊工事費の收支に付ては、歳入歳出外現金收支扱とする

### 瓦斯事業に關する

#### 報償契約附屬覺書の改定

明治四十四年十一月二十五日東京市と東京瓦斯株式會社間に瓦斯事業に關し契約を締結し其趣旨を明にする爲當事者間に取換置きたる報償契約附屬覺書は改定の必要を認めたるを以て本年五月開會中の市會に附議し其議決を得た。

今改定の大要を觀るに前附屬覺書中其第二項「瓦斯導管瓦斯引用裝置及取付工事費ハ従前通り會社ノ負擔トス但特別ノ設計又ハ工費ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス」ハ之を削除し瓦斯導管瓦斯引用裝置及取付工事費負擔方法に關し更に會社が將來主務大臣に認可申請を爲す場合は豫め市の内諾を得べきものとせり而して新覺書は本市が市會の議決を得、會社が役員會議の承認を得及左に掲ぐる瓦斯供給條件を主務大臣に於て認可したる日より其効力を生ずるものとせり。瓦斯供給條件左の如し

一 瓦斯供給ニ要スル瓦斯導管、引込コックハ會社ノ負擔トス但引込管（専用又ハ共用）及屋外管ヲ通算シテ一需用者ニ付拾

貳米ヲ超過スル部分、屋内管並機械、器具類ハ需用者ノ負擔ト  
ス其ノ維持修繕及位置變更ニ付亦同シ

二 瓦斯メートルハ會社ノ負擔ヲ以テ之ヲ取付ケ需用者ハ従前ノ  
通り一定ノ使用料ヲ支拂フモノトス

三 遠隔ノ場所ニ引込ム爲特ニ瓦斯本管ノ延長ヲ要スルトキハ其  
ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ需用者ノ負擔トスルコトアルヘシ

四 普通ノ引込設備ニシテ需要者ノ希望アルトキハ引込管、屋外  
管及屋内管共會社ノ負擔ト爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ  
需用者ハ第一號但書所定ノ延長ヲ超過スル部分並屋内管ニ對シ

一定ノ賃貸料ヲ支拂フモノトス  
前項ノ賃貸料ハ豫メ市長ノ内諾ヲ經ルコトヲ要ス

## 東海方面

### 濱松市都市計畫街路路線

#### 區劃の實施に着手

六大都市に次ぐ四十餘の都市に對しては、大正十二年五月以降  
數次に亘り都市計畫法の適用を受くるべく決定されたが、その實  
際計畫は遅々として進まず、施行區域の決定さへも未定のものか  
少くないが濱松市に於ては之等諸都市に卒先して街路區劃の實施  
に着手する事となり、大正十六年度豫算に八百三十萬圓の都市計  
劃費を計上し、之が財源は公債受益者負擔金及特別税に仰ぐ事と  
なり、この程内務省に認可方申請して來たので、内務省に於て目

下其の財源に充つべき公債及特別程などの決定について調査中であ  
る。

#### 市が補助して沿道居住者

#### 道路鋪裝工事施行

名古屋市では曩に經費二百數十萬圓を投じて、市内の主なる道  
路に鋪裝工事を行ふべく立案したが、財源たる起債が認可されな  
いので行惱みとなつて居る、仍て今回各町民に自發的に工事を行  
はしめ、之に市が若干の補助を行ふこととし目下久保田市道路課  
長が専ら獎勵の任に當つて居たが最近に至り中區萬松寺通りを初  
め本町富澤町方面の住民より續々自發的に鋪裝工事を行ふから市  
より相當の補助金を交付されたいと申請して來たので、市では近  
く具體的調査を行ひ此れが實現に努めて居る。

## 近畿方面

#### 放射線道路改築費用

大阪都市計畫事業の十大放射線道路改築事業は、六月開會の臨時  
府會に豫算並に年度割を提案審議の上、愈々七月より工事に着手  
することに決定して居るが、其路線名並其の改築費用は左の通り  
である。

路線名 幅員 費用

國道十六號線	一五〇	一、二〇一、二四三圓
大阪池田線	一五一—一三〇	六、五四一、五〇五
大阪伊丹線	一三三	一、三七九、七三四
大阪枚田線	一三三	六、五八〇、四二二
大阪枚岡線	一五一—一三三	八六五、五八八
阿倍野堺線	一三三	二、二五三、八〇二
傳法尼崎線	一三三	五、九八三、一〇五
國道二號線	一三一—八	一、六一三、〇六五
大阪住吉線	一二二	六三九、四一六
大阪奈良線	一二二	六五六、三三五

合計(事務費共)二千七百七十一萬四千四百十五圓で、大正十四年度で完成する豫定であるが本年度に着手の分は大阪池田線の五十二萬六千八百六十六圓阿部野堺線八十五萬一千八百四十五圓國道二號線二十六萬百二十五圓にして其の財源は、國庫補助八七三、七六四圓、沿道受益者負擔金三、二九九、八一〇圓、特別負擔金一、四五一、五五一圓、公共團體受益者負擔金九、〇七、三四〇圓、地租割(本税一圓に對し十二錢五厘)三、八四八、二五〇圓、家屋稅雜種稅(本税一圓に對し九錢)五、九〇二、七八二圓にして、尙遊興稅觀覽稅より一、六六六、三八九圓を流用する筈

### 阪神大國道に比肩する

#### 大道路築造

兵庫縣武庫郡今津町第二耕地整理組合では、この程工事に取

かゝり遅くも年内に竣功せしめる豫定であるが、この總坪數約五十町歩であつて、その地域内に新設する道路には從來曾て見ない大規模のものがある、即ち阪神電車が新停留所を置くことになつた箇所(阪急西寶線の延長と阪神本線との連絡する點)から一直線に南下して、今津港に出づる約六百間の新道路はお隣の西ノ宮市にも持合せのない九間三分幅の大道路とする筈で、この内中央三間三分だけ阪神電車の負擔する豫定だが、尙右幅員の外に測溝として左右三尺づゝ、即ち一間と云ふものが加はるから正味の廣さから云へば十間三分と云ふ阪神大國道と餘り違はぬ大道が今津町の西部を南北に縦貫することゝなる、そしてこの新道路は近く實現すべき西ノ宮市今津町合併の曉において、西宮港と省線西宮驛をつなぐ唯一の大幹線となるもので、今津町當局においても特にその點に留意し、所謂百年の大計として立案した大英斷である尙ほ一面東西大幹線として氏神社の前を貫く四間幅の道路も、同耕地整理の事業として同時に完成される豫定になつてゐる。因に右の如く南北幹線の路幅も確定して工事に着手し竣功期亦年内ときまつたので、阪神電車の海岸線(前記阪神本線今津新停留所より新設大道路の上を走つて今津港を経て尼崎市出屋敷に出づるもの)は、既に特許を得てゐることでもあり、かたがた耕地整理の工事と相俟つて、愈々當局の工事施行認可があり次第工事に着手することゝなる模様である。

#### 竣工期近づく阪神國道

日本一の新阪神國道が五年越して大工事を九分九厘まで終り、



今四五ヶ月で完成とまで漕ぎつけたので大阪府、兵庫縣が總勘定のためあらゆる統計を集め初めた。大阪市此花區西野田から神戸市の東境岩屋みめ神社の前に至る延長十四哩、道路面積二十二萬五千坪工費二千萬圓で、これは府縣營土木事業として日本第一である。

又この國道に電車を敷設することについては兵庫縣が必要論、大阪府が不必要論であつた、阪神電車がこの間に活躍したので結局十二間幅を電車の爲三間擴げて十五間とし、三間だけの工費を電車經營者に負擔さすこととして、電車乗入れ一件は兵庫縣の勝となつた。その電車は阪神電車六その他四の割合で新たに組織された「阪神國道電車會社」が今月から工事に着手し十一月までに完成直に運轉を開始するそである。その電車は五十尺といふ日本一の長いレールを用ひ、基礎工事としては郊外電車中日本一軌床の上を阪神間一時間十哩の速度でスチール軌三十輛を兩端から毎六分間に發車運轉するはずである。

新國道の跨りは延長七里が直線に近いこと、他の路線軌道等との路面交叉なく、交通運輸の大理想たる安全、迅速、快適を兼備してあるといふにある。この新道の直線的なことは、カーブが三百間以下の箇所は岩屋に一ヶ所だけ、又勾配も總て三十分一より緩でたゞ住吉川橋梁の眞中が海拔百五十尺あるのみで起點から終點まで一路坦々砥の如しと云つてさしつかへないそのかはり橋は無暗に多く大關の新淀川大鐵橋を初め十間以上の橋が五十一もあり、様式はアーチ形、スバル形、丁字形の三様式でいづれも鐵橋或は鐵筋コンクリートである。その中では新淀川の橋の長さ百間

で工費二百萬圓、鐵材二千噸を使つてゐる、西では武庫川橋が工費一坪當四百圓、五十萬圓で武庫川の清流、松林等周圍の好風景と相俟つて非常に美しい橋である。

さて全道の曉には阪神二大都市間の貨物小運送は悉く貨物自動車でこの國道を利用すべく、又ドライバ、ウエイとして最も理想的なので、バスが非常に有利だといふのでその許可の申請が殺到してゐる、自動車は一時間廿哩の速度としても阪神間三十分以内といふ、現在では最も早い交通機關となる而して當局の胸算用によると、この沿道近接人口現在廿萬人であるから、一ヶ年平均増殖歩合一割としても十五年後にはこの沿道兩側に人家楯比して世界一の長い市街が來る譯であると言ふ。

## 四 國 方 面

### 加嶺峠道路改修決議

香川縣三豊仁尾町では同町公正同志會が主催で加嶺峠線道路改修促進町民大會を去る五月二十日仁尾町端雲院に於て開催した當日は折悪しく雨天であつたが滿堂立錫の餘地なく定刻午後八時より仁尾町助役三木常吉氏外數名の辨士等交々立つて加嶺線改修の必要を叫び我が仁尾町の盛衰は此道路改修の如何にあり、八千有餘の町民は協力一致開通を期せられたいと熱辨を振ひ左の如き決議文を作製して道路改修委員の許に提出した。

決議書

舉町一致萬難を排し加徹の線改修を期す

大正十五年五月二十日

仁尾町民大會

## 中國方面

### 道路修繕デ一

#### 鳥取縣青年團員及在郷軍人

#### 分會員の道路修繕委仕

鳥取縣に於ては大正拾壹年四月青年團、在郷軍人分會の土木作業規程を公布し之等青年をして業務の餘暇道路の修繕に従事せしむべく獎勵し好成績を擧げつゝあるが同縣東伯郡高城村青年團在郷軍人分會員は本年四月二日を道路修繕デ一とし村を擧げて道路の修繕に従事することとし「悪い道路を通行するはお互の困難です」「明日（四月二日）は道路修繕の總動員です」「一戸も残らず眞面目に働ませう」等の宣傳ビラを掲示し大いに宣傳に勵めた結果同日は青年團在郷軍人分會員はもとより各戸一人宛出役し總人員千百三十人を以て村内府縣道、町村道の延長二千六百間を修繕したるが今回縣に於ては其の奇特の行爲を表彰する爲左の表彰狀を交附した。

東伯郡高城村在郷軍人分會

東伯郡高城村 青年團

地方通信

右ハ本年四月會員（團員）舉ケテ府縣道大立倉吉線並八橋勝山線高城村村地内約二千六百間ノ修理ヲ行ヒ交通ノ利便ヲ増進シ成績洵ニ顯著ナリトシ仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

大正十五年五月二十五日

鳥取縣知事 白上 佑吉

## 信越方面

### 小千谷長岡線縣道

#### 復活運動開始されん

新潟縣小千谷停車場から城川、千田の兩村三島郡片貝村大字高梨古志郡石津村の一部を通過して、來迎寺村大字浦で縣道片貝長岡線に連絡する小千谷、長岡線道路は、以前縣道であつたものが廢棄されて町村道となつてゐるのであるが、此の道路は小千谷、長岡の兩地を連絡するに主要な道路で沿線には相當の町村もあるから交通の頻繁なることは縣道として充分資格ありとて沿道町村から縣道の認定方を請願して居るが、今回の臨時縣會開會を機として地方民の運動が開始される模様である。

### 小千谷旭橋竣功式

架換工事中であつた小千谷の旭橋もいよゝ竣功したので六月八日午前十一時から三松知事川上土木課長も臨席して盛大な竣功

式を開催した。

## 梅田堤防縣道認定と

### 信濃川架橋問題

新潟縣長岡市内北部地方の繁榮を期する爲同方面各町の有力者は古志郡川西村方面有力者と相謀り、藏王町地先梅田堤防兼用道路の縣道認定及信濃川架橋の實現を期し期成同盟會なるものを組織し運動をしようとしたが、今回開會の臨時縣會に對し猛烈なる運動をなし其の目的貫徹に百方奔走して居る。

## 東 北 方 面

### 仙臺市の「アスファルト」

#### 道路舗裝計畫

仙臺市の道路の悪いことは夙に有名だが、それに縣市の改修施工は砂利道である關係上横斷勾配が甚だ急で蒲鉾形となり、各町とも町並に比すると一尺餘も中高になり、従つて幅員に比例すると使用率が少くない、そこで最段販の東一番町では先般來これが改良の計劃を立て、「アスファルト」舗裝道路とすべく、ライジンマシンや日本石油に交渉したそうだが坪當り三十圓で見積總工費三萬圓かゝると言ふので、一方手が出せなくなつた由、尙現在市

内で「アスファルト」を用ひてゐるのは宮城野橋と廣瀬橋の人道のみで普通街路では未だ之を舗裝してゐる所はないが東一番町でかくも進んだ計劃を樹立するやうでは、やがて最新式の模範道路が市内に現るであらう。

#### 雄勝峠の自動車運轉

宮城縣桃生郡十五濱村雄勝峠の開鑿問題は、年來の希望たる舊道路改修の見込みなく、依然として行惱みの状態であるので、故森知事時代に改修した新道路を利用して交通の圓滑を期すべく、昨秋村會の承認を經村民の奉仕的活動により自動車の通行が容易になつたので、今回石巻雄勝開の定期乗合自動車運轉が開始された、これによると僅か二時間で兩町を往復し得るので一般村民は非常に喜んでゐるが、今までも最困難とされてゐた時の運轉も除行で五十分位で通行し得るので、額に汗して山越えたことも今では村民の昔話となつて居る。

#### 道路改良計畫の革新

宮城縣においては五百萬圓を投じて、全國一の悪路と稱せらるゝ縣下道路の改良工事を施行すべく、大正十一年度以降十ヶ年の繼續事業として、先づ樞要路線四十二ヶ線の路線改修並五十八ヶ線の主要地點の路面改良の計劃を樹立し爾來工事も着々進捗し來つたが近時自動車の普及發達に伴ひ交通状態も亦著しく變化既定改修路線の變更及路面の工法等變更を要するに至つたので、從來の路面改良の所謂丙丁種（單純なる砂利工事に近きもの）の如き

も改良費を以て支辨し來つたが、この種のもは十五年度以降に  
 おいてはこれを修繕費より支辨し、膠石又は「アスファルト」そ  
 の他特殊舗装及水締砂利道の工法によるものゝみを改良費より  
 支辨することとした。路線の改良もまた今日まで施行した改修工  
 事の成績に鑑みるにその効果著るしといふことを得ないので、當  
 初の計劃を變更し今日の交通状態に基き新舊縣道を問はず四十一  
 路線を選定した。而して單に一小局部の曲線勾配を矯正するが如  
 き工事は後廻しとし、主として道路貫通によりその便益變化の顯  
 著にして交通上新生面を開くと認めたるを施行又橋梁の架替へ  
 新架橋改良に屬すべきものを漸に本費目にて支辨施行するの計  
 劃を立て先づ北上阿隈外六ヶ川に架設する稍大なる橋梁十五ヶ所  
 を選び、新架橋又は架橋を爲すこととした。

以上の方針に依るときは既決繼續費殘額約三百萬圓にては不足  
 を生ずることは明かなことで、此等改良工事に對しては道路法に  
 より受益者の負擔金を課し得べきものであるが本縣の如き地方に  
 ありては負擔區域決定が甚だ複雑且困難であるから地元町村又は  
 關係者より受益者負擔の意味において、工費の四分の一以上の金  
 額或はこれに相當する用地材料勞力等の寄附を受けこれを補充す  
 ることとし、國道の道路及橋梁の改良に對しては國庫補助を仰ぎ  
 てこれを改築するの計劃を立てた、従つて別に既定繼續費豫算の  
 増額を要求せず本計劃を遂行することに決定した而して地元  
 に於て、右寄附を提せざる場合は本計劃施行につきその順位を變  
 更し、寄附を提するものから先づこれに着手する見込みである  
 改修年度は國庫補助又は地元寄附の前後により變更し改修路線も

また寄附の有無によりて改廢せらるゝ結果となるからこの點につ  
 いては關係地方に於て誤解なきよう本計劃の趣旨を充分諒解して  
 居らぬと思はぬ不利益を蒙るであらう、因に大正十五年度の道路  
 改良工事豫定箇所は左の通りである。

路線名	施工地	工種
靈山丸森線	伊具郡筆甫村地内	道路改修
角田中村線	同郡丸森地内	阿武隈川橋梁架換
荒濱亘理線	亘理郡亘理町地内	道路改修
仙臺山形線	名取郡生出村地内	同上
仙臺石巻線	柴田郡富岡村地内	同上
仙臺浦谷線	宮城郡利府村地内	同上
矢本線	志田郡鹿島臺村地内	同上
鹿島臺停車場	桃生線郡鷹來村地内	同上
石巻女川線	牡鹿郡石巻町地内	北上川橋梁架換
雄勝志津川線	本吉郡戸倉村地内	道路改修
涌谷停車場線	遠田郡涌谷町地内	同上
宮崎中新田線	加美郡加美石村地内	同上
仙臺秋田線	玉造郡鳴子町鬼首村入會	同上
仙臺角田線	伊具郡東根村地内	同上
白石青根線	刈田郡宮村地内	同上
仙臺鹽釜線	宮城郡多賀村地内	同上
鹽釜菖蒲田線	同郡七ヶ濱村地内	同上

仙臺志津川線	本吉郡柳津町横山村入	同	上
角田中村線	會横山村戸倉村入會	同	上
國道第四號線	伊具郡丸森町地内	同	上
白石停車場線	名取郡岩沼町地内	路面改良	
仙臺川内線	刈田郡白石町地内	同	上
仙臺橋岡線	仙臺市地内	同	上
仙臺石巻線	仙臺市地内	同	上
仙臺鹽釜線	宮城郡鹽釜町地内	同	上
鹽釜港線	同	同	上
松山鹽釜線	同	同	上
七北田鹽釜線	同	同	上
石巻停車場線	牡鹿郡石巻町地内	同	上
岩ヶ崎若柳線	栗原郡岩ヶ崎町地内	同	上
若柳石巻停車場線	同郡若柳町地内	同	上
若柳佐沼線	同	同	上

山陰方面

鳥根縣の道路保護獎勵

本縣に於ける國道府縣道の整否如何は直接縣民の利害休戚に影響し、地方産業の振否に至大の關係を有するから、從來相當多額の縣費を投じて之が維持修繕に努むるに拘はらず、最近交通量の激増に伴ひ道路の損傷甚敷現狀である將來縣に於て執行する工事

と共に一般縣民の道路愛護の奉仕的努力に俟つのでなくては到底維持修繕の全きを期することが出来ないのて、從來習慣的に實行し來つた道路掃除の良習を縣下に普及せしむると同時に一層徹底的に實行せしむるの緊切を感じ、縣は此地方的良習を助勢し此美舉に酬ゆるの一端として道路保護獎勵規程を發布し獎勵金を交付することにした、其の規程と標準圖則是左の通りである（鳥根縣廳加藤報告主任通報）

道路保護獎勵規程

- 第一條 國道及府縣道ノ維持保全ノ爲市町村ノ區域ニ依リ團體ヲ組織シ其ノ作業ヲ爲シタルモノニハ本規程ニ依リ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム
- 第三條 第一條ニ依ル作業ノ概目左ノ如シ
  - 一 砂利
  - 二 路面ノ不陸均
  - 三 崩落土石其ノ他路面水行ニ關スル障礙物の除却
  - 四 耳芝及側溝ノ手入
  - 五 其ノ他道路ノ維持保全ノ爲必要ナル工事
- 第四條 前條ノ作業ヲ執行セムトスルトキハ所轄土木管區事務所長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ
- 第五條 第一條ノ團體ヲ組織シタルトキハ團則ヲ添へ所轄土木管區事務所長ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ
- 第六條 本規定ニ依ル作業ノ執行ハ道路法第二十四條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

附 則

本令ハ大正十五年六月一日ヨリ施行ス

何市町村何々團 (道路愛護團道路奉仕團)

第一條 本團ハ何郡市町村何々道路愛護團道路奉仕道路保護團

ト稱シ社會奉仕ノ精神ニ基キ道路愛護ノ作業ニ努ムルヲ以テ  
目的トス

第二條 本團ハ本市町村内ノ何々戶主會在郷軍人會青年團ヲ以  
テ組織ス

第三條 本團ノ事務所ヲ何々ニ置ケ  
第四條 本團ニ左ノ役員ヲ置ケ

團 長 一名  
評議員 若干名  
幹事 若干名

第五條 役員ノ選出方法及職務ヲ定ムルコト左ノ如シ  
團 長 何々ヲ以テ之ニ充ツ又團員ノ互選トシ本團ニ關スル  
一切ノ事務ヲ掌理シ其ノ任期何年トス

評議員 團員ノ互選トシ本團ノ事業其他收支ニ關スル議事ニ  
參與シ其ノ任期何年トス

幹事 團長之ヲ囑託シ團長ノ命ヲ受ケ團務ヲ處理ス  
第六條 本團員ハ別ニ定ムル受持區域ニ依リ常ニ道路ノ愛護ニ  
努ムルノ外毎年少クトモ三回三月八月十二月各受持區域一齊

ニ道路ノ維持保全ニ必要ナル作業ヲ行フモノトス  
第七條 本團ノ經費ハ獎勵金又ハ寄附金等ノ收入ヲ之ニ充ツ

地方通信

九州方面

日田町道路改修

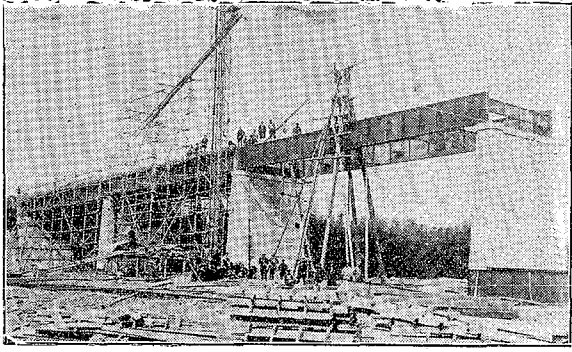
大分縣日田町では久大西線開通前に地區の整理をなすべく曩に  
専門技術者を聘して根本調査をなしたが、之に伴ひ橋梁道路等を  
改修すべく既に大字竹田深川町より東町に至る延長百四十五間の  
東町道路支線の幅員擴張に關して土地の買収に着手することにな  
り更に大字南豆田若宮町より光岡村大字友田宇京塔に至る延長二  
百七十七間の日掛道路の幅員擴張に關しては既に道路委員の實地  
検査があり龜山公園山麓の龜山橋も町費を以て本年九月頃架換工  
事に着手する筈であるから漸次遊園都市として面目を新にするで  
あらう。

道路修繕表彰規定改正

鹿兒島縣では現行の國府縣道路維持修繕表彰規定に依ると、町  
村等公共團體が道路の破損修繕並に道路の掃除をした場合にのみ  
之を表彰することとなつて居り、青年團並に在郷軍人分會等にて  
道路其他の修繕をした場合には表彰されなかつたのであるが、今  
回之を改正して青年團又は在郷軍人分會等の善行をも表彰すると  
共に一般に道路愛護の麗しい精神涵養に努むる方針であると。

大分縣白瀧橋開通式

大分縣大分郡判田村と戸澤町との境界を流るゝ大野川に架設する白瀧橋の架換工事が竣功したので五月五日午前十時から橋梁の上で開通式を又關係町村では協賛會の祝賀會をの右岸川熊理神社の境内で舉行せられた前夜來の雨模様一方ならず心を痛めて居つたが朝に至り全く霽れて絶好の日和となつた橋の上は萬國旗で飾られ紅白の布で巻いた柱を建てこれに仕掛煙火を用意し祭壇は橋の中央に設けられたのである。人の出足もだん／＼盛になつて來る、定刻になつて内務大臣代理島第一技術課長始め、來賓一同着席し式は型の如く神職の袂式大麻行人降神、祝詞、玉串奉奠、昇神知事式辭、内務大臣祝辭、來賓祝辭等順々に進み三夫婦の渡り初めのすむ頃には、既に橋の兩袂は如何にも嬉しそうに早く橋を渡つて見たいと待ち構へて居るものが立錐の餘地がないほどであつた。渡り初めが終ると、先づ戸澤の小學兒童三千餘人が旗行列で、白瀧橋竣功の祝歌を歌



ひつゝ通過し此の時仕掛煙火に點火し祝白瀧橋竣功と染め出したる旗を表はし、一層の景氣を添へ、續いて此の地方の呼物である青年の獅子舞が通り終つて、一般の通行が許されたのであるが、さしにも長き橋も一時は身動きも出來ぬ程であつた又祝賀會場及町内各所には舞臺を設け、戸澤、判田の公町村の青年處女有志が十數日前から練りに練りたる新派舊派劇、二輪加が引つ切りなしに演ぜられ、五日六日の兩日は晝夜湧き返る大賑ひであつた。是れを見て關係町村民が如何に此の橋の竣成を歡喜して居たか想像されるのである。

祝 辭

白瀧橋架換工事功テ竣ヘ茲ニ落成ノ式ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ  
由來三號國道ハ九州東部於ニケル幹線道路トシテ夙ニ重要ノ地位ヲ占メル方開發上資補スル所極メテ大ナルモノアリ今本橋カ精緻ナル規畫ノ下ニ改築成ルテ告ク念フニ交通上一段ノ利便ヲ進メ産業ノ發展ニ貢獻スル所尠少カラサルヘシ冀クハ地方官民諸子之カ維持管理ニ力メ以テ長ニ其ノ効果ヲ收メラレムコトナ一言述ヘテ祝辭トス

大正十五年五月五日

内務大臣 若槻禮次郎

白瀧橋ノ沿革

國道三號線大分郡判田村戸澤町立會白瀧橋は明治四十三年三月始めて架設せられたので夫れ迄は渡船に依り僅かに交通の便を補

ふて居つたものであるが、大野川は古來出水多き川で、年々一度や二度の大洪水に襲はれ、交通の杜絶は元より時に或は不時の出水に客を乗せた渡船が、渦巻く濁流に押し流された悲惨事も屢々あつたと云ふ位で、交通が甚だ不便な所から、關係地方では早くから橋梁の架設を切實に要望したものであるが、何様其の當時としては大事業であるので、終に物にならなかつたのである。然るに明治四十三年漸く其の要望が容れられて、茲に始めて木橋の架設を見たのである。此の時地方民の喜びは實に絶頂に達したのであつた、けれども其の後毎年の出水で或は一部流失し、又破損を來し、其の都度修理を施しつゝ十數年を経過して今日になつたのであるから、橋體が著しく腐朽して平時に於ても車馬の交通は頗る危険であつたのである。是非共架換をせなければならぬ状態になつたので、之れを機會に大分延岡間の國道改良の第一著手として計畫を樹て、大正十一年十一月國庫の補助を申請し、同年度の通常縣會に於て大正十二年度以降二ヶ年の繼續事業として、架換費八萬四千四百二十九圓を議決し實施設計に關しては、其の筋に打合せをなし、尙精密調査を遂げた結果、工費が不足するので翌十二年度の通常縣會で、十一萬五千八百八十四圓に更正議決し、其の後主務省と政度打合を重ね客年四月十三日認可を得、同年五月工事申請に附し、大分市土木請負業者溝口才太郎と契約を締結し本年四月其の竣功を見たのである。

#### 設計の概要

本橋の主體は寫眞で明なる様に「デツキ」式鋼板桁橋であつて各徑間の有効長七十二呎のもの七連より成り、總延長は八十六間

一分である橋面は厚五寸の鐵筋混凝土床版上に膠泥に和土と砂利を施し其の兩側は二間置きに排水用鐵管を布設することとした。橋脚は外徑九尺の井筒二個を、河床以下平均十八尺の深さに沈下せしめて基礎としその上に各一本丸の鐵筋混凝土柱を建て込み鐵筋混凝土壁を以て兩柱の連結をなしたのである。橋臺は内部に玉石混凝土を填充し、其の兩側は練積石垣で保護してある。

前後取付道路は其の延長二百五十四間、幅員二間半、最急勾配三十分の一、最小半徑三十間で、其の工法は主として盛土に土羽付を施して、將來幅員四間迄に出来る様に敷地を買収し擴築の準備に具へた橋臺に接する部分のみは特に洪水位迄練積石垣とした。尙排水の爲めには暗渠及土管を適宜に布設し、左岸の河に添ふ盛土の高い所には鐵筋混凝土で袖柱を建て、危険防止の設備とした。

